

中学部3グループ 国語科 学習指導案

日 時：平成29年7月1日（土）10時00分～10時50分
場 所：多目的ホール1
指導者：伊岡森真由（T1）、柳田 栄基（T2）

1 題材名

想像しよう～「白いぼうし」の世界～

2 目 標

登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、言葉や身振りで伝える。 【思考・判断・表現】

3 生徒と題材（研究テーマとの関わり）

(1) 生徒について

本学習グループは1年生2名、2年生2名、3年生3名、計7名で構成されている。生徒たちは4月からこのグループで学習を始めている。これまでの学習で、ペアで協力して学習課題に向かったり、お互いの答えや考えを伝え合ったりすることが少しずつできるようになってきた。小学校での物語文の読み取りの学習では、学習内容を理解することが難しく、物語を読み解いたり、想像を広げたりする面白さを味わえなかった生徒が多い。

「私の応援計画」作成に当たっての面談では、「気持ちになかなか伝わらない」「自分の気持ちを分かかってほしい」という思いがあることが分かった。また、自分の気持ちが先行してしまい、なかなか仲間の考えに興味をもったり、考えを受け止めたりすることが難しい生徒もいる。

(2) 題材について

本題材では、「白いぼうし」（あまんきみこ作）を教材として用い、物語の内容を理解し、登場人物の気持ちや場面の様子を想像する学習をする。「白いぼうし」は、五感を刺激するような表現が多く含まれている。また、生徒たちがこの物語を学習する季節と物語の季節が同時期であること、生徒たちの日常の中にも起こりそうなファンタジー作品であることから、様々な「手掛かり」を使って物語を読み解いていくのに適した教材である。

本題材では、「本文」に加え、実際の場面を再現して感じたことや、実物を手に取って感じたことなどを「手掛かり」とし、五感を使って読み取りを進めていく。その中で、物語を読むことへの抵抗感を少なくし、「また本を読んでみようかな」「物語って意外と楽しい」などという思いをもってもらいたい。生徒たちの「物語」への関心が高まり、本を読む機会が増えることで、生徒の生活や心が豊かになることを期待したい。

物語の読み取りを通して、生徒7名一人一人がそれぞれの心の中に「白いぼうし」の世界を広げ、物語を深く味わうことで「この気持ちを伝えたい」「みんなの気持ちを知りたい」という思いが湧き出てくることをねらい、本題材を設定した。

(3) 授業づくりの工夫

教材・教具の工夫	<ul style="list-style-type: none">書くことにとらわれず自由に考えを伝え合うことができるように、グループごとにホワイトボードを準備し、簡単にメモしたり、付箋を貼ったりできるようにする。帽子や蝶の模型などを用意し、操作できるようにする。
学習活動・場面の工夫	<ul style="list-style-type: none">グループごとに場面を再現したコーナーを設け、実際に物や体を使いながら考えることができるようにする。各グループの演示を見合い、なぜそう演じたかを説明したり、演示を見て感じたことなどを伝え合ったりする場面を設定する。
生徒同士の関わり	<ul style="list-style-type: none">グループで同じ学習課題に向かって考えを伝え合う機会を多く設定する。全員でお互いの考えを伝え合ったり、発表し合ったりする機会を設定する。

4 題材の評価規準と評価基準		
本題材の評価規準		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ話し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	・フィクション(虚構)による世界が描かれている物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読む。 ・文章中の言葉を根拠にしながら、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする。	・オノマトペ(擬声語、擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。 ・比喻表現(直喩、隠喩、擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。
本学習グループの評価基準		
・「白いぼうし」を読んで感じたこと、考えたことを、劇や話し言葉による発表・やり取りの中で伝え合ったり、表現したりする。	・文章中の言葉を根拠にしながら、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする。	・色やにおい、オノマトペの印象について考えたり、比喻表現があることを知ったりする。

※本表作成にあたって、国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準作成のための参考資料(小学校)」と秋田大学教育文化学部附属小学校「平成28年度『国語科の資質・能力』表」を参考にした。

5 指導計画(総時数13時間)・・・本時6/13		
学習内容	時数	主なねらい
1 「白いぼうし」の話を知ろう ・教師の朗読を聞いたり、本文を読んだりして「白いぼうし」の話を知る。 ・『「白いぼうし」に出てきたものはなに?』のボードを作り、登場人物や大まかな場面の様子について知る。	1	・心に残ったことや不思議に思ったことなど自分なりの感想をつぶやいたり、発言したりする。 【国語への関心・意欲・態度】
2 「白いぼうし」の「なぜ」について考えよう (1) 「いいえ夏みかんですよ。」と言ったときの松井さんの気持ちは? (2) 白いぼうしってどんなぼうし? (3) 「あれっ?」と言ったときの松井さんの気持ちは? (4) 「ははあ、わざわざここにおいたんだな。」なぜ「ははあ」なの? (5) どうして松井さんは白いぼうしに夏みかんを入れたの? (6) 「男の子」は誰? (7) どうして「まほうのみかん」なの? (8) なぜ松井さんには「よかったね。」「よかったよ。」「よかったね。」「よかったよ。」という声が聞こえたのかな?	8 (本時) 5/8	・「なぜ」について感じたこと、考えたことを、劇や話し言葉による発表・やり取りの中で伝え合ったり、表現したりする。 【関心・意欲・態度】 ・「なぜ」について、自分の考えの根拠となった言葉を本文中から示す。 【読む能力】 ・それぞれの場面で出てきた色や匂い、オノマトペについて「どんな感じ」のする言葉か考える。 【言語による知識・理解・技能】
3 「白いぼうし」の朗読劇をしよう (1) 担当する場面を決めよう、練習をしよう (2) 予行練習をしよう (3) 発表会をしよう	4	・今までのグループでの劇や話し言葉による発表・交流のボードをもとに、どのように読みたいか考えたり、実際に読んでみたりする。【関心・意欲・態度】

6 生徒の実態

<表の見方>



国語科の実態

学年

本題材の目標

1



○登場人物の気持ちを、本文から根拠となる言葉を一つ示して読み取ることができる。自分の気持ちや考えを相手に伝えられるようになってきた。

2年：B

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、根拠を一つか二つ示して読み取り、言葉で伝える。



○登場人物の気持ちを、本文から根拠となる言葉を一つ示して読み取ることができるようになってきた。自分の考えを積極的に相手に伝えようとする。

1年：A

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、根拠を一つか二つ示して読み取り、言葉や身振りで伝える。



○登場人物の気持ちを、本文から根拠となる言葉を一つか二つ示して読み取ることができるようになってきた。

3年：C

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、複数の根拠を結び付けて読み取り、言葉や身振りで伝える。

2



○本文に書いてあること（いつ、どこでなど）を読み取ることができる。登場人物の気持ちについては二つの選択肢（悲しい・嬉しいなど）から選ぶことができる。

3年：D

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、根拠を一つ示して読み取り、言葉や身振りで伝える。



○登場人物の気持ちを、本文から根拠となる言葉を一つ示して読み取ることができるようになってきた。自分の気持ちを言葉でどう伝えたらよいか迷うことがある。

3年：E

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、根拠を一つか二つ示して読み取り、言葉や身振りで伝える。

3



○登場人物の気持ちを、本文から根拠となる言葉を一つ示して読み取ることができるようになってきた。相手に伝えることにはまだ抵抗感がある。

1年：F

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、根拠を一つか二つ示して読み取り、言葉で伝える。



○漫画を見ることが好きで、自分なりの解釈で読んでいる。登場人物の気持ちを、本文から根拠となる言葉を一つか二つ示して読み取ることができるようになってきた。

3年：E

- ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、複数の根拠を結び付けて読み取り、言葉や身振りで伝える。

7 本時の計画 (総時数 13 時間中の 6 時間)

(1) 本時の主眼

白いぼうしに夏みかんを入れた松井さんの気持ちを、根拠となる言葉を示して読み取ることができる。

(2) 学習過程

時間	学習活動	教師の働きかけ・留意点
7	1 前時の学習を振り返り、本時の「なぞ」を知る。	<p>○ちやうを逃がしてしまった後の松井さんの様子や独り言を本文から抜き出す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・小さなぼうしをつかんでため息をついている ・「せっかくのえものがいなくなっていたら、この子は、どんなにがっかりするだろう。」 ・かたをすぼめてつつ立っていた ・運転席から取り出したのは、あの夏みかんです </div> <p>→前時のグループのボードを見せたり、キーワードとなる言葉を隠して提示したりする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>どうして松井さんは白いぼうしに夏みかんを入れたのだろう</p> </div>		
15	2 白いぼうしに夏みかんを入れた松井さんの気持ちを考える。 (予想される生徒のつぶやき) ・ちやうを逃がしてごめんね ・代わりに夏みかんを入れるよ	<p>○松井さんの気持ちを『心の声』にして書いたり、動作化する中でつぶやいたりする。</p> <p>→「ちやうがいなかったら男の子はどう思うかな？」と問い掛け、考える機会を設定する。</p>
20	3 それぞれのグループの発表を見合う。 ・夏みかんじゃなきゃだめ ・おふくろが送ってくれたんだ ・大事な夏みかん	<p>○それぞれのグループの考えを知り、「なぞ」について全員で考えを伝え合う。</p> <p>→それぞれのグループの『心の声』や動作について、考えた理由を尋ねたり、説明を補足して全体に伝えたりする。</p> <p>→「他の物でもよかったの?」「ただ車にあったから入れたの?」と問い掛けて、再度本時の「なぞ」について考える機会を設定する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>松井さんは男の子の大切なちやうを逃がしてしまった代わりに おふくろからもらった大切な夏みかんをぼうしに入れたんだね ※できるだけ生徒から出てきた表現を用いてまとめる</p> </div>		
8	・大切なちやうを逃がしてごめんね。代わりに私の大切な夏みかんを入れるね。	<p>→松井さんにとって大切な夏みかんだったことを押さえ、再度『心の声』を考える機会を設定する。</p>
	4 本時の学習と次時のつながりを知る。	<p>○次時で登場する人物が分かり、「女の子」とつぶやく。</p> <p>→松井さんが女の子に気付く場面を演示する。</p>



○期待する生徒の姿 →教師の支援

1



A : ○ 『ちょうを逃がしてごめんね』『代わりに夏みかんを入れるよ』
○ 「おふくろが送ってくれた夏みかんだったね」

B : ○ 『ちょうを逃がしてごめんね』『代わりに夏みかんを入れるよ』
○ 「嬉しくて車に乗せてきた夏みかんだったね」

C : ○ 『ちょうを逃がしてごめんね。代わりに私の大切な夏みかんを入れるよ』
○ 「おふくろが送ってくれて嬉しくて車に乗せてきた大切な夏みかんだったね」

→Bも考えを話すことができるように、CやAに「Bさんにも聞いてみてね」と促す。「どのあたりに書いてあったかな？」と問い掛け、本文に戻って読み返す機会を多く設定する。

2



D : ○ 『ちょうの代わりに夏みかんを入れるよ』
○ 「ぼうしに入れるのは夏みかんじゃなきゃだめ！」

E : ○ 『ちょうを逃がしてごめんね』『代わりに夏みかんを入れるよ』
○ 「夏みかんだったら男の子は喜ぶと思う」

ホワイトボード

→考えがなかなか思い付かない場合は、他のグループを見て回る時間を設ける。2人で活動を進められるようにDに「Eさんにも伝えてみて」などと個別に働き掛ける。



F : ○ 『ちょうの代わりに夏みかんを入れるよ』
○ 「おふくろが送ってくれた夏みかんだったね」

G : ○ 『ちょうを逃がしてごめんね。代わりに私の大切な夏みかんを入れるよ』
○ 「おふくろが送ってくれて嬉しくて車に乗せてきた大切な夏みかんだったね」

→Fの緊張が強いときは、教師がGとのやり取りをつないだり、指差しやメモなどで気持ちを伝えるように促したりする。活動の進め方をGに伝えFを誘いながら取り組めるようにする。

※本時の評価は ○期待する生徒の姿・つぶやき で評価する。